

群馬県立渡良瀬特別支援学校 学校評価一覧表（令和6年度版）

（様式）

羅 針 盤			関係する分掌等	方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評 価 項 目	具 体 的 数 値 項 目			自己評価	外部アンケート等				
Ⅰ 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えてありますか。	○各学部で授業参観や保護者会、個人面談を合計年4回以上実施し、学校の教育活動について保護者の85％以上から満足を得ている。	教務部 学部主事	・授業参観や学習発表会に加えて体育的行事も保護者に公開する。 ・保護者会や個人面談等を実施し、学校の教育活動を伝えるとともに、保護者のニーズを児童生徒の指導・支援に生かす。	A	A	A	・学校行事の実施にあたっては、児童生徒が主体的に行動できる状況設定を行い、意欲的に活動に取り組める姿を公開することができた。 ・保護者会や個人面談では、保護者の意向を聞き取り、学部内で共通理解を図ることで指導・支援の充実を図ることができた。	・学習発表会のステージを観賞し、子どもたちが楽しみながら表現している姿を見て、幸せな気持ちになりました。また、子どもの力を生み出せる育む力を感じました。聴覚に過敏な生徒にマイクの音声の配慮を感じました。 ・児童生徒や来校者に対しても挨拶をすることの大切さを感じました。	・保護者会や個人面談において、保護者が求めている情報の提供をさらに進めるとともに、個人面談では保護者より児童生徒の指導・支援に役立つ情報をさらに得られるよう、質問内容の充実を図ることが課題。
		○学校・学級通信等のWeb上での閲覧や欠席連絡、ホームページの運用など、情報伝達手段等に保護者の80％以上が満足している。	情報視聴覚部	・Webを利用しての通知の閲覧方法等を保護者に周知する。 ・Webを利用しての出欠席連絡や各種アンケートの回答等、保護者の利便性を高める工夫をする。	A	A	A	・現在、セキュリティのため学校配付のGoogleアカウントでの閲覧のみに制限している。設定方法は学校Webページに掲載しているが、操作が難しい家庭もある。	・学習発表会での作品展示は、素晴らしく、教師の日々の指導の努力がうかがえた。	・Webに載せるファイルの共有方法を変更して保護者に見やすくする。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	○交流及び共同学習における学校間交流や、鹿田山の保全活動を通した地域との関わりなどにおいて保護者の80％以上から満足を得ている。	渉外部 交流係 渉外係	・小・中学部の学校間交流では、相手校と連絡を密に取りながら直接・間接交流を実施する。高等部の学校間交流では、鹿田山の保全活動を共同で行う。 ・NPO法人鹿田山環境保全ネットワークと連携し、地域行事に児童生徒、保護者が参加できるようにする。	A	A	A	・小学部は笠懸西小学校とオンラインでのやりとりや、相手校を訪問し、一緒にゲームを楽しみながら交流することができた。中学部では本校生徒の合唱の映像を紹介して間接交流を行った。高等部では大間々高校の生徒と協力しながら鹿田山の保全活動の一環であるサツマイモの苗植えやイモ掘りを協力して行うことができた。 ・菜種まきに全学部で参加した。フットパス整備事業では高等部の生徒、PTAが参加し、遊歩道にチップを敷いたり、提供してくださったカレーを美味しくいただいたりする経験ができた。		・学校間交流は相手校の事情もあるため、計画・準備が難しい側面がある。前年度中に相手校と実施時期を協議しておくなどして、直接交流が行えるように努める。一方で、引き続きオンラインも活用し、交流機会を大切にしながらコミュニケーションを深めていきたい。 ・鹿田山の保全活動に今後も携わるとともに、毎年参加している菜種まきやフットパスにおいて、さらに地域の方々との関わりがもてるように、NPO法人鹿田山環境保全ネットワークとより良い実施方法について検討していきたい。
Ⅱ 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	○本校に直接依頼のあった巡回相談において、訪問した園・学校の85％以上が相談支援に満足している。	地域支援部	・依頼のあった園や学校に事前連絡をし、参観や相談の観点を明らかにしてから訪問する。相談時は具体的な支援方法を伝えることでニーズに応じた相談支援を行う。	A	A	A	・依頼のあった園・学校からの評価は「とてもよかった」「よかった」が90％だった。相談時に相談者から丁寧に聞き取りを行い、参観した様子を交え、具体的な支援方法を伝えることでニーズに応じた。	・障害の有無によって実生活面で不便な面もあるかもしれないが、その子のプラス面を保護者と一緒に認め高め、よい人生が送れるように導いて欲しい。 ・子どもの視線まで腰を落として支援することは大切と感じた。	・定期的な巡回相談に対応できるよう年間を通した申し込みを受け入れたら、さらに多くの園・学級に利用してもらえるよう啓発したりする。
		○地域の関係機関や保護者と連携して行う「地域支援サポート事業わたっこらぶ」の活動内容について、参加した保護者の85％が満足している。	地域支援部	・毎回の面談を通して幼児と保護者のニーズを把握し、部内で共通理解を図りながら有効な支援を探る。活動を通して見られた幼児の姿から有効だった支援を伝えたり、家庭でもできそうな支援方法を保護者と一緒に考えたりしながら支援につなげる。	A	A	A	・わたっこらぶに参加した保護者からの評価は「とてもよかった」「よかった」が100％だった。活動後、保護者から家庭での成長や困り感について聞き取りをし、活動の中で見られた幼児の姿から有効な支援を伝えたり、家庭でできそうな支援方法を一緒に考えたりすることができた。		・活動内容を、新しく参加する幼児の様子や保護者のニーズに応じて見直していく。 ・参加幼児が利用する関係機関と連携をとり、より良い支援を探りつづけられるようにする。
Ⅲ 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	○一人一人の学習状況において、「個別の指導計画」や単元評価等を利用して、それぞれの児童生徒の学びの根拠や評価について、担任は資料に基づいた説明をすることができる。	学習指導部	・校内研修で作成したアセスメントシートや単元計画などを用いて、児童生徒一人一人の学びの根拠を説明できる環境を構築する。	A	A	A	・アセスメントを取り入れたら、単元計画を作成したりして、学びの根拠を説明できる環境が構築されてきた。	・生きる上での基本をしっかりと身に付けると良いと思う。 ・学習発表会の展示や発表を見て、個に応じて丁寧に対応しながら、毎時間の授業を展開していると感じた。	・アセスメントがどのように活用されているか、また単元計画作りがどのように授業改善につながるのかについて学部ごとに確認していく。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	○「個別の指導計画」や単元計画に基づいた指導結果や担任による説明について、保護者の85％以上が満足している。	学習指導部	・単元や題材ごとに3観点の評価基準を設けて、単元や題材ごとに3観点評価を行うことを積み上げていき、評価を授業改善に生かしていく。	A	A	A	・単元計画や個別の指導計画において、内容の関連やつながりなどを意識し、授業形態の違いを考慮した指導の工夫に取り組み始めた。		・単元計画や個別の指導計画の活用をおとして、集団での授業や個別での授業などの授業形態の工夫と使い分けについて整理する。
		○児童生徒の学びを広げたり深めたりするために、iPad等のICT機器が日常生活や授業で活用されていると保護者の80％以上が感じている。	研修部	・校内研修でICT活用について取り上げ、職員全体の情報教育力の向上に努め、各教科等でICTを活用した取り組みを進める。 ・通信などを通じ取り組みを保護者に伝える。	A	A	A	・校内研修にて、Finger BoardなどiPadアプリについての研修などを行い、授業で用いた教材を共有しあう機会をもった。		・R6での研修を生かし、職員全体でICTを活用した授業づくりに取り組む。 ・研修の内容や授業の様子を通信やHPを通じて保護者等に伝える。
Ⅳ 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	○基本的な生活習慣の確立や、児童生徒の健康に配慮した食生活に関する指導を行い、保護者の85％以上から理解を得ている	保健部	・児童生徒の規則正しい生活習慣や肥満予防に関する指導について、養護教諭、栄養教諭、担任、家庭、施設の連携を図りながら実施する。	A	A	A	・月ごとに発行している保健便りや、給食試食会、学校保健委員会といった行事を通して、基本的な生活習慣の確立や、児童生徒の健康に配慮した食生活に関する指導について、保護者から理解を得ることができた。	・環境に配慮した学校づくりに取り組んで欲しい。地元地域として、緊急時には支援体制を整えていきたい。 ・もう少し子どもたちが外に出て、太陽や風に当たる時間が合った方が健康的に生活できると感じる。不審者対策を万全にして欲しい。	・児童生徒の肥満予防について、お便りや保護者参加の行事を通して啓発を進め、学校、保護者、施設、学校医などが一体となって取り組んでいく。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	○職員の80％以上が日々の学校生活の中で学校設備への安全意識を持ち、児童生徒に対して安全への配慮ができる。	管理部	・『危機対応マニュアル』を活用したり、全体連絡や職員会議などで危機管理に対する情報を提供したりして、職員の危機管理に対する意識が高まるような啓発活動を行う。	A	A	A	・「危機対応マニュアル」に対応した避難訓練の実施要項を作成し、職員に周知を図った。地震などの災害が起きたり、指導上留意すべき事故のニュースが伝えられたりした際には、職員に周知し、校内での対応方法を情報提供した。		・学校で震度5以上の地震が起きた場合の学校での取り組みを具体的に検討する。また、校内の遊具の更新について事務室とも連携しながら取り組む。
	8 年間を通じて、計画的な生活・安全指導を行っていますか。	○年間を通じて学校で取り組んでいる「いじめ防止活動」が実際にいじめ防止・早期発見に繋がっていると保護者の80％以上が感じている。	生徒指導部	・学期ごとに児童生徒へ各種アンケートを実施し、頑張っていることや悩んでいることなど現状を把握し職員全体で指導支援に繋げる。 ・いじめ防止に関する職員研修を実施し、知見を高める。	A	A	A	・全学部で学期ごとにアンケートを実施したことで、児童生徒の日々の変化を逃すことなく指導に活かすことができた。 ・いじめ未然防止について研修を2回実施し、職員の知見を高め、指導に活かすことができた。		・アンケートの方法やアンケート結果について保護者や施設長に向け情報を発信するための手段を考え、実施していきたい。 ・研修の方法について検討し、職員の知見が高められるように努める。
Ⅴ 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	9 キャリア教育の観点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	○キャリア教育全体計画をもとに、児童生徒一人一人のキャリア発達に応じた指導を、職員の80％以上が意識して実践している。	進路指導部	・職員研修や資料による周知をし、キャリア教育についての共通理解を深める。 ・キャリア教育全体計画に沿い、児童生徒の卒業後の生活をイメージした系統的な学習を行う。	A	A	A	・新任、転任の職員に対して研修を行い、本校のキャリア教育推進に関する共通理解を図った。 ・キャリア発達能力の目標を念頭に置きながら「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を策定し、保護者との共通理解のもと、教育活動を行った。	・できることを楽しみながら伸ばし、できれば職業につくくらい少しずつ近づくといい。 ・進路指導については、家族・本人・学校・関係機関との密な会議で決まっていると思いますが本人のことを今以上に理解し進路を決めて欲しいと思う。また、卒業後の事業所訪問は卒業生の励みになると感じる。	・キャリア発達能力の目標と関連付けながら、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の策定や、校外学習等の行事の立案を行い、保護者との連携のもとに実施していく。
	10 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	○保護者との面談や進路懇談会等の行事で提供される進路情報について、保護者の80％以上が役立っていると感じている。	進路指導部	・学校ホームページや、PTAと連携した「卒業後の生活についての座談会」などの進路関連行事を通して、保護者に情報を提供する。	A	A	A	・保護者のニーズに沿って進路行事を実施し、情報を提供するように努めた。進路行事に参加した保護者のアンケートでは、内容について「満足できた」という回答が100％だった。		・児童生徒の進路実現に向け、今後も保護者との面談や進路行事等を通して、段階的かつニーズに沿った情報を提供できるように努める。